SAGAスポーツピラミッド構想トーク

SSPアンバサダー、柔道家 古賀稔彦氏 × 佐賀県知事 山口祥義氏

SSP構想で佐賀に好循環

佐賀県は、トップアスリートの育成と多くの人にスポーツを「する」「育てる」「観る」「支える」といった多様な楽しみ方を広めようと、「SAGAスポーツピラミッド構想（SSP構想）」に取り組んでいる。五輪など佐賀から世界に挑戦する選手の発掘・育成から、選手が地元に根付くことができる地域づくり、県民がスポーツの感動を共有できるようなスポーツ文化の裾野拡大を狙い、さまざまな方策を進めている。今年の茨城国体・全障スポの選手結団式に合わせて行われた、山口祥義知事とSSPアンバサダーの古賀稔彦さん（みやき町出身）の公開対談を紹介する。

SSPアンバサダー、バルセロナ五輪金メダリスト

古賀稔彦氏

Koga Toshihiko

こが・としひこ　1967年11月21日生まれ。福岡県出生、佐賀県出身。柔道八段、一般社団法人古賀塾代表理事、塾長。医学博士、IPU環太平洋大学体育学部体育学科教授、同大学女子柔道部総監督。

佐賀県知事

山口祥義氏

Yamaguchi Yoshinori

古賀 心優しい選手の育成を

知事 選手と県民、感動を共有

触れ合いきっかけに

知事　まずは豪雨災害で被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げる。大町町の避難所を訪れた際、サガン鳥栖のユニホームを着た人がたくさんいた。サガン鳥栖が炊き出しを行った時に配ったものだった。直後のベガルダ仙台戦は大きく盛り上がったそうで、スポーツの底力を感じた。

古賀　一般の方々はテレビや競技場で観戦することがほとんどなので、選手と触れ合う機会はなかなかない。通常、スポーツ選手は応援される立場だが、選手が交流の場に足を運んで誰かの力になるということは、一般の方とスポーツを結びつけるよいきっかけになると思う。

知事　まさにSSP構想の想いは、そういったところにもある。トップアスリートを目指すことは素晴らしいことなのだが、バルセロナ五輪で古賀さんが金メダルを獲得した時のように、佐賀ゆかりの選手を応援しようと思ったり支えたりすることも感動的。スポーツファンの裾野にアスリートが入っていく場面が多くなればいい。また現役を終えた選手が次世代を指導するなど、スポーツが循環するシステムを佐賀から作りたい。

古賀　スポーツは人生の教育。スポーツを通して、努力をする大切さ、仲間との助け合いなどを学ぶ。そして、魅力ある選手になってもらうことが大切なことだと思う。簡単に言えば優しい心を持つこと。魅力のある選手はたとえ負けたとしても応援される。勝つことも大事だが、優しい心を育むことで一生を通して愛される選手になれる。

知事　先日、現役を引退したサガン鳥栖のトーレス選手もSSPアンバサダーになってもらった。サガン鳥栖での経験はかけがえのない財産だから、佐賀にも恩返しをしていきたいと言ってくれたが、それはこれまでの競技人生の一日一日を大事にしっかりやってきたことの結晶だと思う。

恩返しの気持ちを

古賀　よく選手が感謝という言葉を使うが、大切なのはその後に恩返しの心を持つこと。自分が誰かに恩返しの気持ちを持って応援するような人間になることが大切。これから選手の皆さんもいろんな人に応援されると思うが、勝負が終わった後は応援してくれた人に恩返しの言葉や行動を示してほしい。サガン鳥栖の選手たちがボランティア活動に参加したことも一つの恩返しの気持ち。これからそんなアスリートがぜひ佐賀から育ってほしい。

知事　2019世界柔道選手権では、遅咲きの丸山城志郎選手が苦しい試合の中、すごい力を出した。

古賀　丸山選手は伸び悩んだ時期があったが、「あなたの柔道を見てもらえばいい」という妻の一言が転機になったそうだ。この一言をくれた妻に恩返しをしたいという気持ちで、一気に東京五輪を狙えるほどに力を付けてきた。自分のためだけでなく、誰かのためと思った時、たくましい精神力を生み出すことができる。それがプラスアルファの力を出すきっかけになる。

知事　確かにいろんなものを背負う人ほど、土壇場ですごい力を発揮する。会場の皆さんもきっかけがあれば上昇できるのではないか。絶対にやってやるという心意気を指導者とともに作っていってほしい。

古賀　選手だけの経験値ではできないこともある。そこをアドバイスしてくれるのが指導者。指導者の一言で選手はいくらでも生まれ変わることができる。指導者自身が選手以上の努力をしていくことで選手にたくさんのチャンスを与えることができる。選手だけが頑張らなくてはいけないと思われがちだが、チーム一丸となって勝負に挑むことがより高いパフォーマンスにつながる。

仕事と競技

知事　茨城国体では柔道チームにも期待している。

古賀　佐賀の柔道は、軽量級が頑張っている。重量級は有名な学校に若いうちから引き抜かれることが多い。

知事　ぜひ、多くの種目で多くのアスリートが佐賀県内に残ってもらいたい。

古賀　有名企業がトップアスリートを獲得するという昔からの流れがある。しかし、地方でも仕事と競技を両立させながらしっかりサポートできれば残ってくれると思う。

知事　佐賀県内でもひらまつ病院や今村病院などいくつかの企業で、スポーツ選手としてだけでなくその企業で本当に働けるような形で雇用していただいている。SSP構想は、4年後の「佐賀国スポ」で天皇杯を取るということだけではなくて、むしろその先に根付くスポーツ文化を目標にしている。選手たちは「佐賀国スポ」だけでなく、その先もずっと佐賀県の精鋭であってもらいたい。

県全体で支える

古賀　そのためには佐賀県の企業に、選手時代の数年間だけでなく、競技人生が終わった後に一生働いてもいいと思える体制を作ってもらわないといけない。

知事　佐賀県は共働きが多く、女性アスリートの雇用先も関心事だ。例えば、陸上では女子選手の働き先がなく他県で就職している。各種目で雇用のこともよく分析して、企業も含め県全体で支える仕掛けを作りたい。

古賀　ぜひそうしていただきたい。また、スター選手が出てくると盛り上がりにつながる。

知事　今整備中のSAGAサンライズパークには、古賀さんのようなレジェンドを顕彰するコーナーを設ける予定にしている。大きく活躍した選手はたたえたい。もっともっと盛り上げて、佐賀はスポーツ大県だという雰囲気を作りたい。

古賀　そのためには、小学生以下にも、これからを見据えアピールしていくことが重要。保護者が、スポーツも人生にとって大切だという認識をしっかり持ってくれれば、スポーツをやらせようということになる。

知事　選手からも県へ要望を挙げてほしい。いろんな声を集約してスポーツを盛り上げていきたい。（※SSP希望の箱へ。右表参照）

古賀　（茨城国体・全障スポの選手団へ）応援をプレッシャーではなく、喜びに変えて頑張ってほしい。そして、勝っても負けても応援してくれた人へ恩返しの気持ちを伝えて。大会で終わりではなく、その後にすてきなアスリートとなってほしい。私も応援している。

SAGAスポーツピラミッド構想・重点3分野

①スポーツエリートアカデミーSAGAを核にした「人材育成」
②佐賀で練習に打ち込むことができる「練習環境の充実」
③アスリート・指導者の佐賀定着に向けた「就職支援」

SSP構想をみんなで支えましょう！

佐賀県へのふるさと納税、（公財）佐賀県スポーツ協会の「SSP基金」へのご寄付をお願いします。

SSP希望の箱

スポーツの「する・育てる・観る・支える」について、皆さんの希望に満ちたご意見をお聞かせください。

【提出先】
〒840-8570
佐賀県SAGAスポーツピラミッド推進グループ
ssp-kibounohako@pref.saga.lg.jp

問い合わせ先

佐賀県SAGAスポーツピラミッド推進グループ
☎ 0952-25-7345　✉ ssp-g@pref.saga.lg.jp

佐賀から
国体は、国スポへ。

スポーツの素晴らしさを全ての人が感じる大会へ。

2023年 佐賀国スポ・全障スポ開催

「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会 佐賀大会」公式ホームページはコチラから　2023　佐賀国スポ

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会佐賀県準備委員会事務局（国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会総務企画課内）
TEL 0952-25-7322　FAX 0952-25-7495　✉kokuspo-zensyousoumu@pref.saga.lg.jp